

海外安全対策情報（2018年1月～3月）

1 社会・治安情勢

カンパラ市で発生する70%の強盗や殺人に関しては、ストリート・チルドレンが関与していると警察機関より公表されました。

カンパラ市内では、薬物を使用している若者（13歳～24歳）が増加しており、ここ1か月間に薬物事件は1000件発生しています。

過去3年間で、ボダボダ（バイクタクシー）事故で、7000人が死亡しました。無謀運転、交通規制違反が原因と言われています。

2 一般犯罪・凶悪犯罪

（1）盗難・強盗事件等

ア 邦人被害事案

○2月、身分証明書の提示を求められ、強制的に入国管理局への連行される被害が発生しました。

○3月、マタツ（乗合タクシー）利用時の窃盗被害1件、ボダボダ利用時の窃盗被害1件、宿泊ホテル滞在中の窃盗被害1件が発生しました。

イ 邦人以外

○カンパラ市（Kampala）

3月28日、23時頃、自宅に帰宅しようとしたところ、敷地内で待ち伏せしていた強盗に襲撃され、車両を強奪される被害が発生しました。

（2）殺人事件

○カンパラ市（Kampala）

1月2日、カンパラ市ケース・ホスピタルに勤務している会計士が、同病院に勤務している警備員3名に殺害される事件が発生しました。

2月15日、カンパラ市内を巡回していた警察官2名が何者かに殺害される事件が発生しました。

○グル県（Gule）

2月7日、グル県では1月だけで8名が殺害される事件が発生しました。

（3）強姦事件

邦人が被害に遭ったとの情報には接していませんが、ウガンダにおいては強姦事件が深刻な問題となっています。また、被害者となる女性の大半が未成年者であり、近親相姦が頻繁に発生しています。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ・爆弾事件は発生していません。しかし、ウガンダ政府は近隣国ソマリアの治安向上を目的にアフリカ連合ソマリアミッション (AMISOM) に自国軍を派遣し、ソマリア武装テロ組織「アル・シャバーブ」に対する掃討作戦に参加しています。このため、同組織はウガンダへの反発を強めており、しばしば当国を名指しで報復する旨発言していることから、引き続き注意する必要があります。

また、シリアやチュニジア、バングラデシュで発生した日本人が殺害されるテロ事件をはじめ、ISIL (イラク・レバントのイスラム国) 等のイスラム過激派組織又はこれらの主張に影響を受けた者によるとみられるテロが世界各地で発生しています。したがって、日本人・日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険があることから、このような情勢を十分に認識して、誘拐・脅迫・テロ等の不測の事態に巻き込まれることがないように、渡航情報及び報道等により最新の治安・テロ情報等の関連情報の入手に努め、日頃から危機管理意識を持つとともに状況に応じて適切で十分な安全対策を講じるよう心がけてください。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人が誘拐・脅迫される事件は発生していません。しかし、ウガンダにおいては人身売買および身代金を目的とした誘拐事件が多数発生しており、邦人が巻き込まれる可能性も否定できないため、滞在中は警戒を怠ることのないよう十分注意してください。

○カンパラ市 (Kampala)

1月14日、ワンデゲヤ警察署に勤務している警察官3名がムラゴ病院の歯科医を誘拐し、金銭を盗みました。

2月7日、ルボガ地区で28歳の女性が身代金目的で誘拐され、その後、殺害されました。

2月24日、マキンディ地区でコンゴ国籍の女性が誘拐されました。ここ2か月間でカンパラ市内では6名が誘拐被害に遭っています。

3月23日、ルボガ地区で32歳の女性が身代金目的で誘拐され、殺害されました。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

対日感情が良好なこともあり、日本企業であることを理由に標的とされる可能性は低いですが、上記「テロ・爆弾事件発生状況」のとおり、テロが世界各地で発生していることを踏まえれば、日本人・日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険も排除できませんので、十分注意のうえ安全対策を怠らな

いよう努めてください。

以上